



10月

水害被害から見る日本人の善悪

校長 油井 宏樹

運動会1週間前の週間天気予報では、運動会当日は雨の予報でした。それが2日前倒しになり、26日(土)には雨も上がり運動会ができるようになりました。日頃、大海小学校の児童が前向きに頑張っているご褒美が天気にも表れたと思います。

運動会は、子どもたちが自分の目標をもち、全力で練習に取り組む意欲や態度を育てることをねらいとしています。個人の力を発揮すると同時に、集団行動を通してルールの大切さを確かめ、学級の仲間づくりを一層進められる機会にもなります。練習の中で経験する嬉しさや悔しさ。それは、一人一人違う思いではありますが、一緒に喜んであげたり、励まし合ったりするかわりが、子どもたちを一層成長させていきます。この運動会で、子どもたちは一回りも二回りも成長したと思います。

運動会の日には、たくさんのご声援、ご協力をいただきました。また、保護者の皆様には運動会の成功に向けて、運営や会場設営など様々な面でご尽力をいただきました。いつもながら、感謝いたします。有難うございます。

話は変わりますが、先月鬼怒川の堤防が決壊したため、付近ではおよそ1万2千世帯に避難指示・避難勧告が出され、いまだ不自由な生活をしている人がたくさんいます。テレビのニュースやインターネットの画像を見て、少しでも役に立ちたいと日本各地からボランティアが大勢集まってきました。岐阜県中津川市のボランティア団体「中津川市防災市民会議」は土砂災害などの被害を受けた栃木県鹿沼市で復旧のボランティア活動をしました。その中には中高生も参加したようです。若者が素直に育っていると心から嬉しく思います。困っていたら助ける日本人の心の優しさを改めて感じました。

しかしその一方で、考えられないことも起こっています。水害に襲われた茨城県常総市内で空き巣の被害が出たといえます。水害に遭い、これからどうして生きていこうと希望を失いかけている人に、こんなことを平気でする心が理解できません。人が苦しんでいる弱みにつけ込んで、盗み・空き巣狙いなど全く聞くだけでも腹立たしく思います。いったいいつからこんなひどい国になり下がってしまったのかと……。たぶん、このような人は日本人のほんの一握りだと思います。でも、そんな一握りの人が許せません。学校現場にいる教職員である以上、日本人が誇れる「道徳」を小学生のうちからしっかり教える必要性を感じます。

道徳観は、学校だけでは子どもに教える限界があります。家庭でも学校でも日頃、子どもたちと接し、一つ一つの行動を見ながら、その時のかけた言葉や態度が道徳観を育てます。大海小学校で教えられた子は、善悪の判断、命の大切さなど規範意識をもつ、人の痛みが分かる人間に育ってほしいと思っています。